

みどりについての市民意識 [概要]

本資料は、第2回協議会の資料1「立川市緑の基本計画に係るアンケート調査結果について」についての第2回協議会のご意見をふまえ、市民アンケート結果の分析について地域別や属性別のクロス集計の整理を拡充するとともに、その他の既往アンケート調査から伺える市全体のイメージを追記した上で、みどりについての市民意識の概要をまとめたものです。

目次

2	みどりについての市民意識 [概要]	1
2-1	市民アンケートの実施概要	1
2-2	市民アンケート結果のまとめ	1
2-3	立川市内の緑の現況について	2
2-4	お住まいの地域の公園の現況と利用状況について	3
2-5	今後の緑の保全と創出について	4
2-6	【参考】既往アンケート調査から伺える市全体のイメージ	5
	【資料ア】身近な公園の緑の豊かさにおける国営昭和記念公園の影響	6
	【資料イ】単純集計結果の概要	8
	【資料ウ】アンケートの調査票	12
	【資料エ】標準偏差について	18

2 みどりについての市民意識 [概要]

2-1 市民アンケートの実施概要

立川市内の緑の現況、お住まいの地域の公園の現況と利用状況、緑の保全と創出に関わる今後重要視する立川市の取組等に関する市民意識を把握するためアンケートを行いました。

調査対象	立川市に住民票を有する令和5年12月1日現在で満18歳以上の男女2,000人
抽出方法	無作為抽出
調査期間	令和5年12月19日調査票発送から令和6年1月10日回答投函締切
回収結果	有効回収数：郵送調査474件、Logoフォーム141件 合計615件 有効回収率：30.8%（前回33.2%）

2-2 市民アンケート結果のまとめ

◆立川市内の緑の現況について

- ・「樹林などの自然の緑」、「河川、水路などの水辺の緑」、「身近な公園の緑」は多いとの認識ですが、それらの緑は10年前に比べると減少していると感じられています。

◆お住まいの地域の公園の現況と利用状況について

- ・利用頻度について、月1回以上（ほぼ毎日、週2～3回、週1回、月2～3回、月1回）利用する回答者数は、「ほとんど利用しない」回答者数を上回ります。
- ・利用目的は「散歩」、「通り道」、「花や自然を楽しむ」が上位となりました。60代以上の高齢者は一人利用の頻度割合が高く、子供連れの30～40代は月1回以上程度の利用が多くなっています。

◆今後の緑の保全と創出について

- ・今後重要視する立川市の取組の上位は「自然環境として貴重な樹木や樹林の保存」、「河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全」、「道路の緑化と緑の適切な維持管理」でした。
- ・市民にとって特に「身近な公園」は今後増えてほしい緑のみならず、次世代に引き継ぎたい緑として認識されています。
- ・市民一人一人が出来ることは「市民農園利用や野菜購入を通じた農地保全への協力」、「庭やベランダで緑を育てる」「樹林地の保全活動に協力する」「地域の公園や緑地で清掃・除草・点検への協力」が上位を占めました。
- ・緑の基本計画において議論すべき、本市において重要と考える社会課題は、「子育て」、「災害に強い都市の形成」の2つが多く回答され、3番目に多かったのは「暑熱対策・ヒートアイランド現象への対策」です。

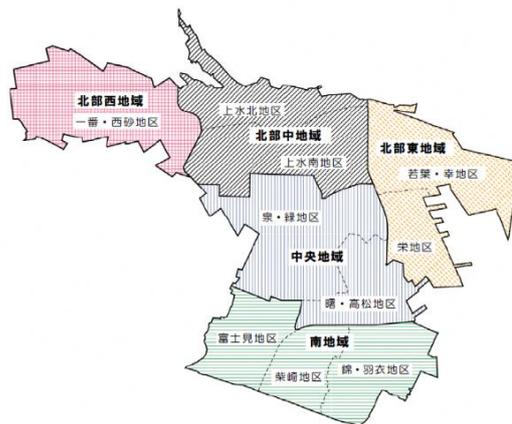
◆自由記述意見

- ・街路樹や樹木の管理に関する内容や、子供の遊び場や遊具の整備に関する意見、市民とのコミュニケーションに関する意見が多く寄せられました。

2-3 立川市内の緑の現況について

立川市内の緑について、市民がどのように緑の豊かさをとらえているかについて、「樹林などの自然の緑」、「河川、水路などの水辺の緑」、「身近な公園の緑」は多いとの認識ですが、それらの緑は10年前に比べると減少していると感じられています。

回答傾向を地域別で整理しました。



緑の種別	地域別の捉え方
1. 樹林など自然の緑	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部中地域で『多い』という傾向で、特に「柏町」と「上砂町」で『多い』と捉えられています。 ● 中央地域で『少ない』傾向で、特に「高松町」で『少ない』と捉えられています。
2. 身近な公園の緑	<ul style="list-style-type: none"> ● 南地域と中央地域が『多い』という傾向で、特に「曙町」は「多い」だけで4割を超え、「富士見町」は3割を超えています。 ● 北部東地域では、特に「栄町」と「幸町」は「多い」と「やや多い」の合計よりも「ふつう」が上回っています。
3. 住宅地の緑	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部中地域が最も『多い』と感じられています。特に「柏町」で「多い」が選択されています。 ● 南地域と中央地域が『少ない』傾向にありますが、個別にみると南地域の「羽衣町」が最も「少ない」の回答が多いです。
4. 商業地の緑	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に「ふつう」が多く、次いで『少ない』傾向です。 ● 北部中地域は比較的他の地域よりも『少ない』の選択が少ないです。 ● 個別にみると「曙町」で「多い」と捉えられています。
5. 農地の緑	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部東地域、北部中地域、北部西地域で『多い』が4割を超えました。 ● 一方、南地域と中央地域では『少ない』が4割を超えています。
6. 道路の緑（街路樹など）	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれの地域も「ふつう」が最多でした。 ● 北部中地域と北部西地域は『多い』が4割を超えています。
7. 河川、水路などの緑	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部中地域、北部西地域で『多い』と捉えられており、特に「柏町」と「西砂町」でその傾向があります。 ● 南地域は「普通」の回答が多い傾向です。

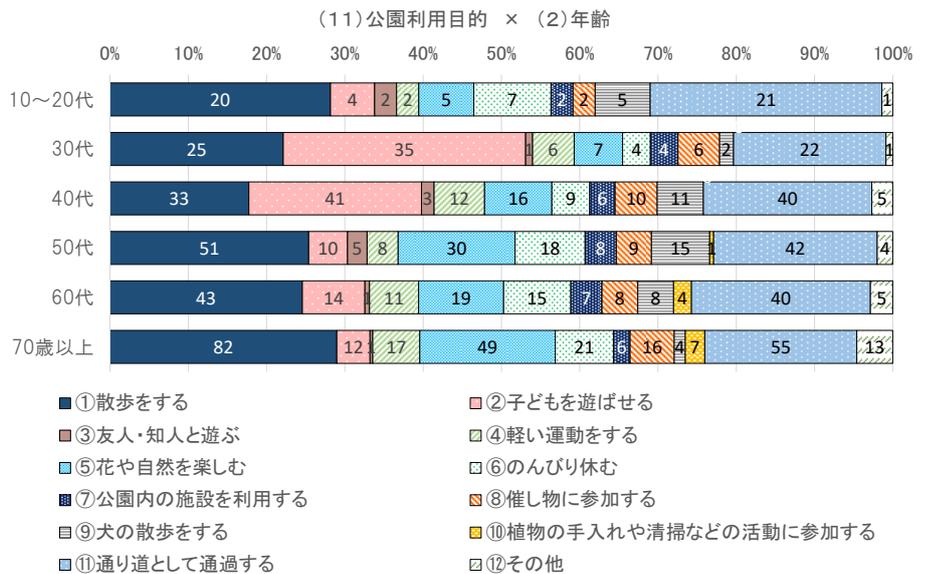
注) アンケートの回答の「やや多い」と「多い」をまとめたものを『多い』、「やや少ない」と「少ない」をまとめたものを『少ない』と表現しています。

2-4 お住まいの地域の公園の現況と利用状況について

◆年代別

30代と40代は「子どもを遊ばせる」、10～20代と70歳以上は「散歩をする」の回答が多い傾向です。

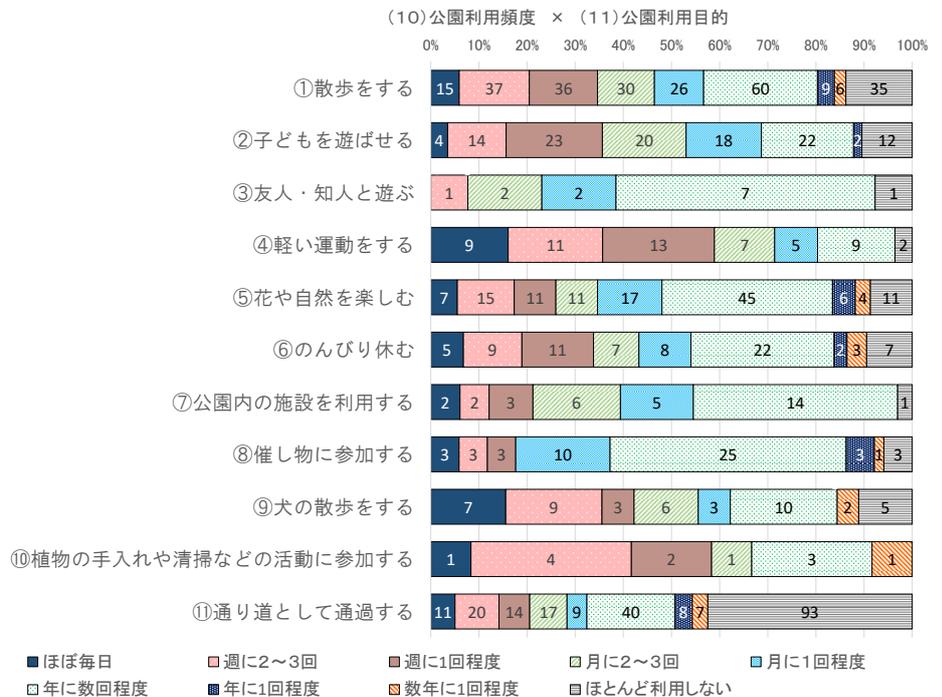
「花や自然を楽しむ」を目的とした利用は50代以上で多くなってきます。また、「植物の手入れや清掃などの活動に参加する」の回答は50代以上からあり、比較的若い世代の回答はありませんでした。



◆利用頻度別

週に1回以上の利用があり、高頻度の利用目的は「軽い運動をする」と、「植物の手入れや清掃などの活動に参加する」です。

「子どもを遊ばせる」は月に1回程度以上の利用が5割を占めています。「通り道として通過する」は、公園を「ほとんど利用しない」と回答した人に顕著に多くなっています。



◆立川市での継続居住意向別

立川市に今後も住み続けたいと思う、どちらかと言えば思う、という属性は類似傾向を示しており、身近な公園の良いところとして「住まいから近い」（約20%）、「広々としている」、「花や緑が豊かである」（約13%）を挙げています。一方、不満な所としても「狭い」及び「遊具・休憩場所が少ない」（約10%）、「花や緑が豊かである」（10%未満）との指摘がありました。

住み続けたいと思わない人は、不満な所として「狭い」（約30%）、どちらかと言えば住み続けたいと思わない人は、不満な所として「遊具・休憩場所が少ない」及び「住まいの近くに公園がない」（約10%）を挙げています。

2-5 今後の緑の保全と創出について

緑の保全と創出のために今後重要視する立川市の取組と地域別の傾向を下表に整理しました。取組の中で、樹木や樹林の保全に関しては、ほとんどの地域で重要とする回答割合が高く、立川市の北部を流れる玉川上水に関しては実際に玉川上水が存在する地域で特に重要とする回答割合が高い傾向でした。道路の緑化と緑の適切な維持管理は、街路樹の多い北部西地域と、街路樹の少ない北部東、中央、南のいくつかの地域で重要と捉えています。また、各地域において、重要とする回答割合の多い順に取組を順位付けすると、いずれかの地域で上位3つに選ばれたのは取組の番号1、3、4、7、8、9であったことから、これらの取組は、いずれかの地域において特に重要視されている取組と言えます。

取組	地域別の傾向
1. 自然環境として貴重な樹木や樹林の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれの地域でも回答の8割前後が『重要』となっています。 ● 『重要』とする回答割合の高さは、ほぼ全ての地域で1位から3位のいずれかです。
2. 立川崖線の緑の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれの地域も回答の6割前後が『重要』となっていますが、立川崖線のある南地域は、中央地域、北部東地域、北部中地域よりも『重要』とする回答割合は低めです。
3. 河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 玉川上水が含まれる北部の3地域で回答の7割強が『重要』となっています。 ● 『重要』とする回答割合の高さは「錦町」、「上砂町」、「西砂町」で1位、「富士見町」、「曙町」、「若葉町」、「幸町」、「柏町」、「砂川町」で2位、「羽衣町」、「一番町」で3位です。 ● 自由記述などで玉川上水の落ち葉や草刈等の維持管理要望意見もあります。
4. サンサンロード・市内の緑道・立川崖線・玉川上水などの緑のネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の取組と比較して、『重要でない』の選択が全くない地域があり、市内全体で緑のネットワークが求められている傾向です。 ● 『重要』とする回答割合の高さは「柴崎町」、「栄町」で2位、「高松町」、「砂川町」、「上砂町」で3位です。
5. 農地や屋敷林の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部東地域において、回答の約6割が『重要』という傾向ですが、立川市全体では「ふつう」の回答割合が高い傾向です。
6. 新しい公園の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての取組の中で『重要』とする回答割合が最も低く、「緑町」と「泉町」を除く地域で、『重要でない』という回答があり、特に「柴崎町」、「上砂町」で『重要でない』の回答割合の高さが顕著です。
7. 今ある公園の整備・改修	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれの地域も回答の6割以上が『重要』となっており、特に中央地域と北部東地域で7割以上です。地域別でみると「緑町」、「泉町」、「柏町」、「幸町」で『重要』とする回答割合が高いです。 ● 『重要』とする回答割合の高さは「羽衣町」、「緑町」、「泉町」、「柏町」で1位、「富士見町」、「曙町」で3位です。
8. 道路の緑化と緑の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれの地域も回答の7割前後が『重要』となっています。 ● 『重要』とする回答割合の高さは「西砂町」、「一番町」、「高松町」、「羽衣町」で2位、「柴崎町」、「曙町」、「栄町」、「若葉町」で3位です。
9. 公共施設の緑化と緑の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央地域と北部東地域において回答の約7割が『重要』となっています。 ● 『重要』とする回答割合の高さは、「幸町」で3位です。 ● 『重要でない』の回答割合が多い地域は「上砂町」、「富士見町」、「羽衣町」です。
10. 住宅地や企業地における多様な緑化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央地域で回答の約6割が『重要』となっています。 ● ほぼ全ての地域で『重要でない』という意見があります。
11. 開発事業における緑化の誘導	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての地域で、回答の5割以上が『重要』となっており、特に中央地域は7割弱を占めています。
12. 身近な公園や街中の花壇などを管理する団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に回答の5割前後が『重要』となっており、特に回答数は少ないものの「緑町」8割、「泉町」7.5割、「幸町」6.5割が『重要』となっています。
13. 市民や事業者と連携した公園、広場などの管理・活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央地域のすべてと、北部地域の「幸町」、「砂川町」、「西砂町」において回答の6割以上が『重要』となっています。
14. 緑に関する市民、事業者の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央地域と北部東地域で回答の5割以上が『重要』となっています。特に「高松町」、「緑町」、「泉町」では『重要でない』の回答がありません。
15. 生きものの生息場所となる緑の保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央地域で回答の6割以上が『重要』となっています。 ● 北部の地域はやや差がありますが、「幸町」、「砂川町」、「西砂町」も回答の6割以上が『重要』となっています。

注) この表ではアンケートの回答の「やや重要」と「重要」をまとめたものを『重要』と、アンケートの回答の「あまり重要でない」と「重要でない」をまとめたものを『重要でない』と表現しています。

その他の傾向として、今後増えてほしい緑、次世代に引き継ぎたい緑として「身近な公園」が特に認識されています。また、市民一人一人が出来ることについては「市民農園利用や野菜購入を通じた農地保全への協力」、「庭やベランダで緑を育てる」「樹林地の保全活動に協力する」「地域の公園や緑地で清掃・除草・点検への協力」が上位を占めました。緑の基本計画において議論すべき、本市において重要と考える社会課題は、「子育て」、「災害に強い都市の形成」の2つが多く回答され、3番目に多かったのは「暑熱対策・ヒートアイランド現象への対策」でした。

2-6 【参考】 既往アンケート調査から伺える市全体のイメージ

◆立川市の環境についてのアンケート結果報告書（令和6年2月）

- 立川市の将来の理想的な環境イメージについて、「自然や緑が豊かなまち（62.3%）」が最も多く、次いで「災害に強く安全に住み続けられるまち（59.2%）」、「公共交通機関の充実したまち（41.7%）」、「空気や水がきれいなまち（37.9%）」の回答が多いです。その他、7番目に「農地が保全されているまち（11.5%）」があります。
- 将来に向けて残したい身近な自然や環境についての自由記述設問では「国営昭和記念公園」が最も多く133件、次いで「玉川上水と緑道・緑地」121件、「根川緑道・桜並木」62件の回答が多いです。公園緑地以外の具体的な施設名として「グリーンスプリングス」が9件あり「施設の中に緑があるときれい」、「都市と緑化の融合施設」といった内容が理由に挙げられています。

◆立川市来街者意向調査（令和5年9月）

- 立川のイメージといえば「国営昭和記念公園（51.7%）」が最多で、次いで「飲食店・個店（23.5%）」、「デッキ・大型商業施設（19.4%）」の回答が多いです。「豊かな自然（玉川上水・根川緑道など）（11.1%）」は7位です。調査における来街目的では「公園・自然散策」は3.4%ですが、おすすめ度では10段階評価で8の評価が最も多く26.7%、次いで7の評価が19.8%、10の評価が18.6%の順番です。
- 立川の街並み・景観や自然豊かな公園・緑地に関しては、「東京23区・島しょ」から来た人はこれらの整備が進んでいると「思う（43.8%）」が最多、さらに住んでみたいと思える理由として「自然環境に恵まれている」を挙げています。「神奈川・埼玉・千葉」と「その他の都道府県」の首都圏等から来た人は、街並み・景観や自然豊かな公園・緑地の印象について、特に立川の景観や自然が周辺の都市よりも優れているかについて「どちらかといえばそう思う（約37%）」が最多です。
- 「新鮮な地場産野菜」は立川のイメージとしての認識は1.2%で、その他を除き最下位ですが、立川は住んでみたい魅力あるまちと思えるおすすめ度では10段階で8の評価を選択した割合は44.4%です。
- 立川のイメージに「アニメやドラマの舞台・ロケ地」が11.2%の割合で認識されています。これらロケ地の内訳は、サンサンロード、諏訪の森公園、オニ公園、GREEN SPLINGS、みの一れ立川北広場、曙公園、その他の民間の農園等の実績が複数あります。

【資料ア】身近な公園の緑の豊かさにおける国営昭和記念公園の影響

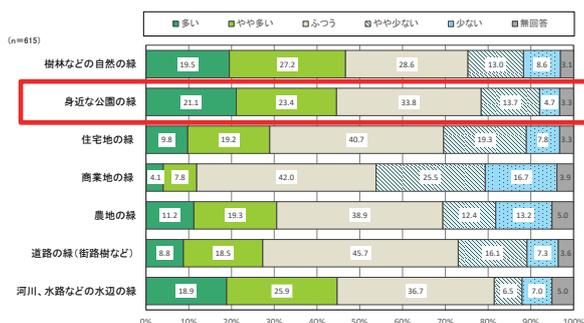
国営昭和記念公園の存在がアンケート結果にどの程度影響があるかについて検証しました。問（7）お住まいの地域の現在の緑の豊かさと、問（8）立川市全体の現在の緑の豊かさについて、問（12）お住まいの地域でよく利用する公園（自由記述）のうち「国営昭和記念公園と回答したグループ」、「国営昭和記念公園以外の地域の公園等と回答したグループ」、アンケート回答未記入の「公園名称記載無しのグループ」の3グループに分類したクロス集計（次頁に示した地域別も加えた多重クロス集計）の結果、以下の傾向が示されました。

立川市民の「身近な公園の緑」の豊かさの感じ方（国営昭和記念公園の影響）

- **国営昭和記念公園と回答したグループ**：住まいの地域・市内全体で国営昭和記念公園をイメージして回答、緑の量は多い傾向。
- **地域の公園等と回答したグループ**：住まいの地域では実際によく利用する公園をイメージして回答、緑の量は多い。立川市全体では、よく利用する公園を基準に、国営昭和記念公園を比較対象とし、緑の量はやや多めからふつう。
- **公園名称記載無しグループ**：住まいの地域では、特にイメージする公園が無く、公園の緑の量はふつう。立川市全体では、国営昭和記念公園をイメージ、緑の量はどちらかということやや多め。

結論：特に、公園名称記載無しグループが国営昭和記念公園に影響され、立川市全体の身近な公園の緑の量「やや多い」を選択し、この部分が影響を受けた結果と考えられる。

問(7)お住まいの地域の現在の緑の豊かさ

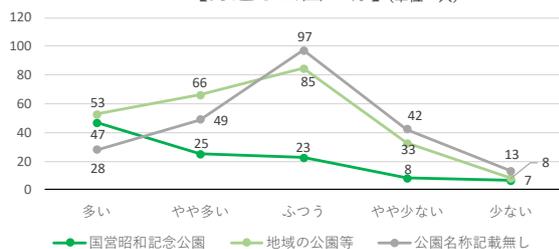


問(8)立川市全体の現在の緑の豊かさ



設問7 お住まいの地域の緑の豊かさ

【身近な公園の緑】(単位：人)

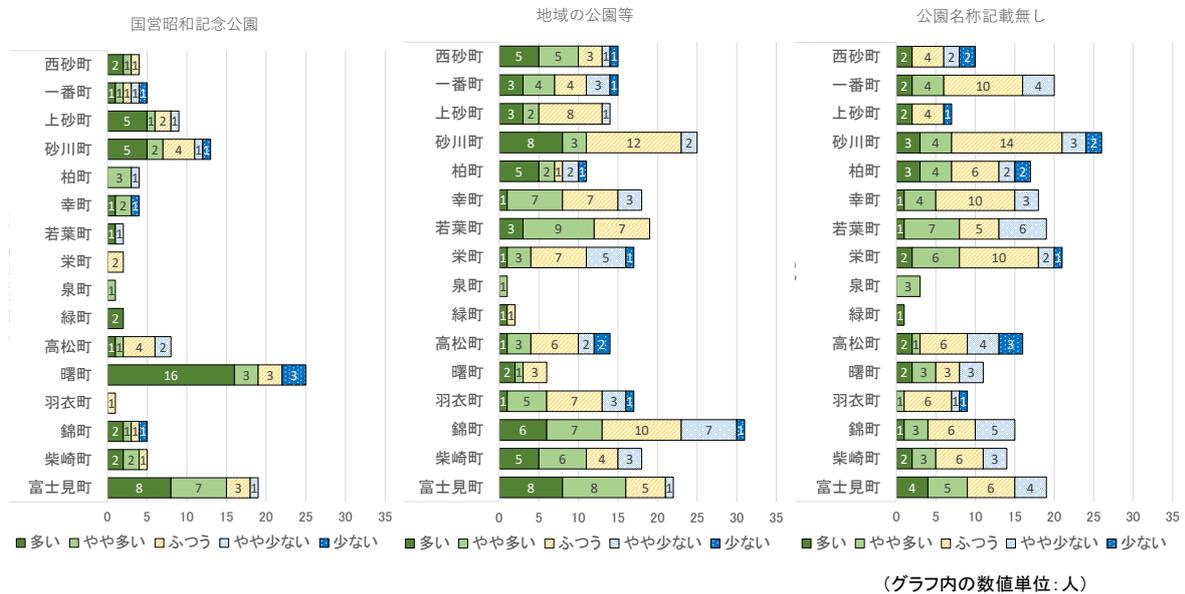


設問8 立川市全体の緑の豊かさ

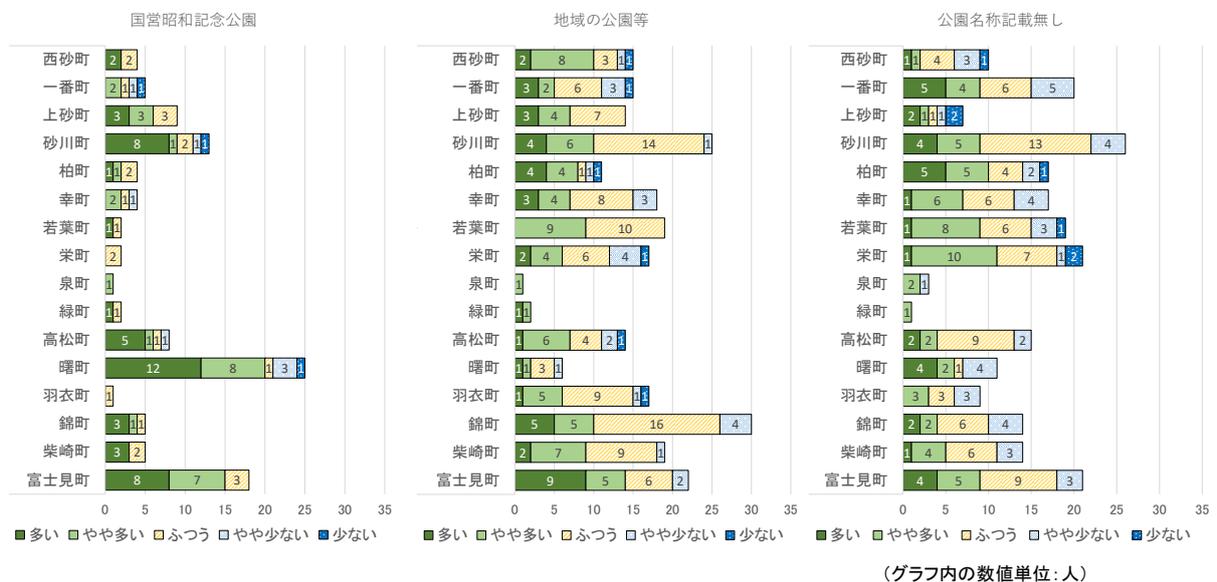
【身近な公園の緑】(単位：人)



問7（お住まいの地域の身近な公園の緑の豊かさ）×問12（【お住まいの地域】でよく利用する公園の3種類のグループ別）×問4（地域別）のクロス集計結果



問8（立川市全体の身近な公園の緑の豊かさ）×問12（【お住まいの地域】でよく利用する公園の3種類のグループ別）×問4（地域別）のクロス集計結果



【資料イ】単純集計結果の概要

市民アンケートの設問の構成と単純集計結果の概要は次の通りです。

内容	設問項目	形式	単純集計結果概要
属性 ・クロス集計の分析用	問1～問6 性別、年代、市内での居住年数、居住地区、住まいの種類、今後も住み続けたいか	選択式 単一回答	-
立川市内の緑について 現状認識の把握 (緑の豊かさ) ・市民の現状認識の把握(データとのギャップの分析)	問7 お住まいの地域における緑・水辺の豊かさ 【選択肢】 樹林など自然の緑 身近な公園の緑 住宅地の緑 商業地の緑 農地の緑 道路の緑(街路樹など) 水路などの水辺 ※多い～少ないの5段階	選択式 単一回答	・「多い・やや多い」が4割を超えるのは 「樹林など自然の緑」 「身近な公園の緑」 「水路などの水辺」 ・緑の豊かさの感じ方の傾向は前回調査の結果と同様
	問8 立川市全体の緑・水辺の豊かさ 【選択肢】 樹林など自然の緑 身近な公園の緑 住宅地の緑 商業地の緑 農地の緑 道路の緑(街路樹など) 水路などの水辺 ※多い～少ないの5段階	選択式 単一回答	・「多い・やや多い」が4割を超えるのは 「樹林など自然の緑」 「身近な公園の緑」 「水路などの水辺」 ・緑の豊かさの感じ方の傾向は前回調査の結果と同様
	問9 10年前と比較した立川市全体の緑の量 【選択肢】 樹林など自然の緑 身近な公園の緑 住宅地の緑 商業地の緑 農地の緑 道路の緑(街路樹など) 水路などの水辺 ※増えている～減っているの5段階	選択式 単一回答	・全項目で「10年前と変わらない」が最多 ・「やや減っている・減っている」が、全項目で「増えている・やや増えている」を上回る ・「増えている・やや増えている」は、「商業地の緑」で最多 ・「やや減っている・減っている」は、「農地の緑」で最多
お住まいの地域の公園について 身近な公園に対する認識の	問10 身近な公園の利用頻度 【選択肢】 ほぼ毎日、週2～3回、週1回、月2～3回、月1回、年に数回、年に1回、数年に1回、ほとんど利用しない	選択式 単一回答	・「ほとんど利用しない」が最多 ・月1回以上の合計は、「ほとんど利用しない」を上回る ・前回調査より月1回以上の合計が6.2pt増加し、「ほとんど利用しない」は5.3pt減少

内容	設問項目	形式	単純集計結果概要
把握 ・ 公園の現状 評価の把握	問 11 公園の利用目的 【選択肢】散歩、子どもを遊ばせる、友人と遊ぶ、軽い運動、花や自然を楽しむ、休む、施設を利用、催し物に参加、犬の散歩、植物の手入れや清掃、通り道、その他	選択式 複数回答	<ul style="list-style-type: none"> ・「散歩」が最多。次いで、「通り道」、「花や自然を楽しむ」 ・前回調査より「散歩」が11.1pt 増加。「催し物に参加」は5.4pt 減少、「子供を遊ばせる」は5.2pt 減少
	問 12 よく行く近くの公園	自由 記入	<ul style="list-style-type: none"> ・単独の公園では国営昭和記念公園が108件で最多 ・次いで「立川公園（根川緑道・ガニガラ広場）」19件、「御影橋公園」10件
	問 13 問 12 の公園への交通手段 【選択肢】徒歩、自転車、公共交通機関（バス・電車）、自家用車	選択式 単一回答	<ul style="list-style-type: none"> ・「徒歩」約4.5割、「自転車」約1割、「公共交通機関（バス・電車）」0.1割未満、「自家用車」約0.2割
	問 14 問 12 の公園へ誰と行くか 【選択肢】一人で、子供と、夫婦で、孫と、親と、友達と、近所の人と	選択式 単一回答	<ul style="list-style-type: none"> ・「1人で」約3割、「子供と」1割強、「夫婦で」約1割、「孫と」約0.4割、「友達と」約0.3割、「近所の人と」約0.2割、「親と」0.1割未満
	問 15 問 12 の公園のよいところ 【選択肢】広い、花や緑が豊か、樹木や草木が手入れされている、遊具の充実、休憩場所が充実、見通しよく安心、施設が使いやすい、ゴミが少ない、ルールやマナーがよい、近い、利用者が多く賑やか、特にない、その他	選択式 複数回答	<ul style="list-style-type: none"> ・「近い」4割強、「広い」3割強、「花や緑が豊か」は3割弱 ・前回調査と比べ回答割合の順序は基本変化ないが、「休憩場所が充実」のみ3ランク下がり下から2番目となった
	問 16 身近な公園について不満を感じる場所 【選択肢】狭い、花や緑が少ない、樹木や草木が手入れが悪い、遊具が少ない、休憩場所が少ない、見通し悪く不安、施設が使いづらい、ゴミが多い、ルールやマナーが守られない、禁止事項が多い、遠い、利用者が少ない、特にない、その他	選択式 複数回答	<ul style="list-style-type: none"> ・「特に不満はない」が最多（35.8%）。次いで、「狭い」（16.1%）、「遊具が少ない」（14.5%）、「休憩場所が少ない」（13.7%）、「花や緑が少ない」（12.0%） ・「特に不満はない」が前回調査より10.6pt 増加

内容	設問項目	形式	単純集計結果概要
<p>今後の緑の保全と創出について</p> <p>社会課題の把握</p>	<p>問 17 立川市において重要と考えられる社会課題</p> <p>【選択肢】子育て、保健・福祉、災害に強い都市の形成、暑熱対策、生物多様性、ゼロカーボン、にぎわい、コミュニティ、歴史文化、良好な景観</p>	<p>選択式 複数回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て」と「災害に強い都市の形成」が5割弱で最も回答が多い ・次いで「暑熱対策」4割強、「良好な景観」と「保健・福祉」が4割弱
	<p>参考（前回調査）緑に期待する役割</p> <p>【選択肢】憩いの場、歴史文化、レクリエーション、健康増進、生物多様性、にぎわいとやすらぎのある景観、都市環境の緩和、災害に強い都市</p>	<p>選択式 複数回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が重視している緑の役割では、「憩いの場」約6割、「都市環境の緩和」5割弱、「災害に強い都市」4割強
<p>市の公園緑地施策が目指すべき方向</p>	<p>問 18 次世代に引き継いでいきたい緑</p> <p>【選択肢】雑木林、崖線の緑と湧水、多摩川の水辺環境、玉川上水と分水、農地・屋敷林・社寺林、公園の緑、緑道や街路樹、住宅地の緑、立川駅周辺、その他</p>	<p>選択式 複数回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「公園の緑」が7割強で最も多く、4割強が「玉川上水と分水」「多摩川の水辺環境」「道路や街路樹」
	<p>問 19 今後緑が増えるとよい緑</p> <p>【選択肢】樹林などの自然、身近な公園の緑、住宅地の緑、商業地の緑、農地の緑、道路の緑（街路樹など）、河川・水路、その他</p>	<p>選択式 複数回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な公園の緑」が約4.5割で最多 ・次いで「樹林などの自然」「道路の緑（街路樹など）」が4割前後
<p>市の公園緑地施策が目指すべき方向</p> <p>・今後の市の施策に対するニーズの把握</p>	<p>問 20 緑豊かなまちづくりを進めるために市民一人一人が出来ることとして必要だと思う取組</p> <p>【選択肢】庭やベランダで緑を育てる、ブロック塀を生垣に変える、地域ぐるみで緑化、身近な花壇などで花の育成、公園緑地での清掃等、樹林地の保全活動、市民農園利用や野菜購入を通じた農地保全への協力、イベント・講習会に参加、募金、できることはない、その他</p> <p>※前回調査は「あなた自身が出来る」取組について伺った</p>	<p>選択式 複数回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民農園利用や野菜購入を通じた農地保全への協力」、「庭やベランダで緑を育てる」「樹林地の保全活動に協力する」が上位3位 ・「あなた自身が出来る」取組について伺った前回調査と比べ、「樹林地の保全活動」が12.5pt増加、「市民農園利用や野菜購入を通じた農地保全への協力」が5.1pt増加 ・前回最多であった「庭やベランダで緑を育てる」は24.0pt減少 ・参加型の取組が増加

内容	設問項目	形式	単純集計結果概要
	<p>問 21 緑豊かなまちづくりを進めるための立川市の取組で今後重要視すること</p> <p>【選択肢】貴重な樹林や樹木の保全、崖線の緑の保全、河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全、サンサンロード他緑のネットワーク、農地や屋敷林の保全、新しい公園整備、既存公園の再整備・改修、道路緑化と維持管理、公共施設緑化と維持管理、住宅地や企業地の緑化支援、開発時の緑化誘導、公園などと管理する団体育成、市民事業者と連携による公園の管理・活用、普及啓発、生きもの生息場所の保全・創出</p> <p>※重要～重要でないの5段階</p>	<p>選択式 単一回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「重要・やや重要」が7割を超えるのは「貴重な樹木や樹林の保全」「河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全」 ・「あまり重要でない・重要でない」は「新しい公園」で最多
	<p>問 22 その他立川市の緑・水辺に関する意見</p>	<p>自由記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木や街路樹の維持管理が特に多い ・その他、子供の遊び場や遊具の整備に関する意見、市民とのコミュニケーションに関する意見が多い

【資料ウ】 アンケートの調査票

★マークのしかた



立川市緑の基本計画に係るアンケート調査

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし ◐: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したりしないように注意してください。また、ご記入は黒または青のボールペンか、HB以上の濃さの黒鉛筆をお願いします。

【以下の各項目について、令和5年12月1日現在の状況でお答えください。】

あなたご自身について

(1) あなたの性別についてお聞かせください。（1つを選択）

- 男性 女性 その他・答えたくない

(2) あなたの年齢（満年齢）についてお聞かせください。（1つを選択）

- 18歳～29歳 30歳～39歳 40歳～49歳 50歳～59歳
 60歳～69歳 70歳以上

(3) 立川市での居住年数についてお聞かせください。（1つを選択）

- 1年未満 1年以上5年未満 5年以上10年未満
 10年以上20年未満 20年以上

(4) あなたが現在【お住まいの地域】についてお聞かせください。（1つを選択）

- 富士見町 柴崎町 錦町 羽衣町 曙町 高松町
 緑町 泉町 栄町 若葉町 幸町 柏町
 砂川町 上砂町 一番町 西砂町

(5) お住まいの種類についてお聞かせください。（1つを選択）

- 一戸建て（持家） 一戸建て（賃貸） 集合住宅（持家）
 集合住宅（賃貸） その他（寮、官舎など）

(6) あなたは、これからも立川市に住み続けたいと思いますか。（1つを選択）

- 思う どちらかと言えば思う どちらかと言えば思わない 思わない

→裏面へ続く

★マークのしかた



立川市内の緑について

(7) あなたは、【お住まいの地域】の現在の緑の豊かさをどのように感じていますか。お住まいの地域は、ご自宅の近所（概ね設問(4)で選択した地域）をイメージしてください。（項目ごとに1つを選択）

	選択肢				
	多い	やや多い	ふつう	やや少ない	少ない
1 樹林などの自然の緑	○	○	○	○	○
2 身近な公園の緑	○	○	○	○	○
3 住宅地の緑	○	○	○	○	○
4 商業地の緑	○	○	○	○	○
5 農地の緑	○	○	○	○	○
6 道路の緑（街路樹など）	○	○	○	○	○
7 河川、水路などの水辺の緑	○	○	○	○	○

(8) あなたは、【立川市全体】の現在の緑の豊かさをどのように感じていますか。（項目ごとに1つを選択）

	選択肢				
	多い	やや多い	ふつう	やや少ない	少ない
1 樹林などの自然の緑	○	○	○	○	○
2 身近な公園の緑	○	○	○	○	○
3 住宅地の緑	○	○	○	○	○
4 商業地の緑	○	○	○	○	○
5 農地の緑	○	○	○	○	○
6 道路の緑（街路樹など）	○	○	○	○	○
7 河川、水路などの水辺の緑	○	○	○	○	○



★マークのしかた



(9) 約10年前（10年以内に引っ越してこられた方はその時から）と比べて、【立川市全体】の緑の量は増えていると思いますか。（項目ごとに1つを選択）

		選択肢					
		増えている	やや増えている	約10年前と変わらない	やや減っている	減っている	わからない
1	樹林などの自然の緑	<input type="radio"/>					
2	身近な公園の緑	<input type="radio"/>					
3	住宅地の緑	<input type="radio"/>					
4	商業地の緑	<input type="radio"/>					
5	農地の緑	<input type="radio"/>					
6	道路の緑（街路樹など）	<input type="radio"/>					
7	河川、水路などの水辺の緑	<input type="radio"/>					

お住まいの地域の公園について

(10) あなたは、【お住まいの地域】の公園をどのくらいの頻度で利用していますか。（1つを選択）

- ほぼ毎日 週に2～3回 週に1回程度
 月に2～3回 月に1回程度 年に数回程度
 年に1回程度 数年に1回程度 ほとんど利用しない

(11) あなたは、【お住まいの地域】の公園で主に何をしますか。（複数選択可）

- 散歩をする 子どもを遊ばせる 友人・知人と遊ぶ
 軽い運動をする 花や自然を楽しむ のんびり休む
 公園内の施設を利用する 催し物に参加する 犬の散歩をする
 植物の手入れや清掃などの活動に参加する 通り道として通過する その他（ ）

(12) 【お住まいの地域】であなたがよく利用する公園を一つ教えてください。利用する公園が無い場合：未記入で設問(16)へ。公園名が分からない場合：〇〇町〇丁目の公園とご記入ください。

(13) 設問(12)で記入した公園に、主にどのような手段で行っていますか。（1つを選択）

（注：立川市管理の公園内には駐車場はありません）

- 徒歩で 自転車で 公共交通機関（バス・電車）で 自家用車で

(14) 設問(12)で記入した公園に、主に誰と行っていますか。（1つを選択）

- 1人で お子様と一緒に ご夫婦で、又はパートナーと一緒に
 お孫様と一緒に 親と一緒に 祖父母と一緒に
 お友達と一緒に ご近所、地域の方々と一緒に

→裏面へ続く



★マークのしかた



- (15) 設問(12)で記入した公園の良いところを教えてください。（複数選択可）
- 広々としている 花や緑が豊かである 樹木や草花がよく手入れされている
- 遊具が充実している 休憩場所が充実している 見通しがよく安心できる
- 施設が使いやすい ごみが少なく清潔感がある ルールやマナーが守られている
- 住まいから近い 利用者が多くにぎやかである
- 特にない その他（ ）
- (16) 【お住まいの地域】の公園について、不満に感じるところを教えてください。（複数選択可）
- 狭い 花や緑が少ない 樹木や草花の手入れが悪い
- 遊具が少ない 休憩場所が少ない 見通しが悪く不安を感じる
- 施設が使いづらい ごみが多く汚い ルールやマナーを守らない人が多い
- 禁止事項が多い 住まいの近くに公園がない 利用者が少なく閑散としている
- 特に不満はない その他（ ）

今後の緑の保全と創出について

- (17)社会資本整備やまちづくり等に緑を積極的に取り入れて、自然のしくみや緑が持つ様々な環境保全機能を活用して社会課題の解決を図る「グリーンインフラ」という考え方が注目されています。このような考え方をふまえ、緑の基本計画において議論すべき、立川市において特に重要と考える社会課題は何ですか。（複数選択可）
- （注：緑とは、樹林地（崖線上の斜面林、雑木林、社寺林、屋敷林等）、草地、農地及び公共施設・民間施設・住宅の庭先等で緑に被われている空間、河川、用水・分水、池沼、湿地、湧水地等の水面及び水辺地、緑に被われていないものの持続性、公開性の高いオープンスペース（公園、広場、グラウンド等のうち、緑に被われていない部分）や芝地をさします。）
- 子育て（自然に触れ合える子どもの遊び場の確保、子どもや子育て世代の居場所となる空間づくり等）
- 保健・福祉（ウォーキング、運動、草花とのふれあいなどを通じた心身の健康の増進等）
- 災害に強い都市の形成（オープンスペースによる避難地・避難路の形成、樹木帯による延焼防止、災害時の一時避難場所としての農地、公園等の復旧活動の拠点化、緑地の雨水の貯留浸透機能を活用した浸水対策等）
- 暑熱対策・ヒートアイランド現象への対策（木陰による涼しいスポットの確保、自然的な土地利用維持による夏季の温度上昇の抑制等）
- 生きものの生息場所や生物多様性の確保（樹林・草地・水辺など生きものの生息・生育のための多様な環境の確保等）
- ゼロカーボン（樹林の適切な維持管理による二酸化炭素吸収の促進、落ち葉を燃やさず堆肥化等）
- にぎわい創出（公園再整備による人の呼び込み、広場等への植物の一時的な設置による人の呼び込み等）
- コミュニティの形成（公園や農地などの確保、イベント開催などによる、人々が集まり交流できる場の創出等）
- 歴史や文化の継承（歴史的な社寺の緑や玉川上水などの継承、社寺や公園を舞台とした祭りの継承等）
- 良好な景観の形成（公園、並木、開けた農地、連なる斜面樹林などによる良好な景観の確保等）



- (18)【立川市内】の緑や水辺の中で、あなたが次世代に引き継いでいきたいと思うものは何ですか。（複数選択可）
- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 武蔵野の雑木林 | <input type="checkbox"/> 立川崖線などの緑（斜面林、矢川緑地）と湧水 |
| <input type="checkbox"/> 多摩川の水辺環境 | <input type="checkbox"/> 玉川上水と分水 |
| <input type="checkbox"/> 農地や屋敷林・社寺林 | <input type="checkbox"/> 公園の緑（昭和記念公園、身近な公園など） |
| <input type="checkbox"/> 緑道や街路樹の緑（根川緑道、ケヤキ並木など） | <input type="checkbox"/> 住宅地の緑 |
| <input type="checkbox"/> J R 立川駅周辺の緑豊かな街並み | <input type="checkbox"/> その他（ ） |
- (19)今後、【立川市内】のどのような緑が増えてほしいと思いますか。（複数選択可）
- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 樹林などの自然の緑 | <input type="checkbox"/> 身近な公園の緑 |
| <input type="checkbox"/> 住宅地の緑 | <input type="checkbox"/> 商業地の緑 |
| <input type="checkbox"/> 農地の緑 | <input type="checkbox"/> 道路の緑（街路樹など） |
| <input type="checkbox"/> 河川、水路などの水辺の緑 | <input type="checkbox"/> その他（ ） |
- (20)緑豊かなまちづくりを進めるために、市民一人一人が出来ることとして、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択可）
- 庭やベランダで緑を育てる
 - ブロック塀などを生垣に替える
 - 近所の人と協力して地域ぐるみの緑化を進める
 - 身近な花壇やまちかどにおいて花の育成や植え付けを行う活動に参加する
 - 地域の公園や緑地で清掃・除草・点検などを手伝う活動に協力する
 - 落ち葉・枯れ枝の清掃など樹林地の保全活動に協力する
 - 市民農園の利用や市内でつくられる野菜の購入などを通じて農地保全に協力する
 - 花や緑に関するイベント、講習会に参加する
 - 「緑の募金」に協力する
 - 特にできることはない
 - その他（ ）

→裏面へ続く





(21)緑豊かなまちづくりを進めるための立川市の取組について、今後どのくらい重要視しますか。（項目ごとに1つを選択）

	選択肢				
	重要	やや重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
1 自然環境として貴重な樹木や樹林の保全	<input type="radio"/>				
2 立川崖線の緑の保全	<input type="radio"/>				
3 河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全	<input type="radio"/>				
4 サンサンロード・市内の緑道・立川崖線・玉川上水などの緑のネットワーク	<input type="radio"/>				
5 農地や屋敷林の保全	<input type="radio"/>				
6 新しい公園の整備	<input type="radio"/>				
7 今ある公園の再整備・改修	<input type="radio"/>				
8 道路の緑化と緑の適切な維持管理	<input type="radio"/>				
9 公共施設の緑化と緑の適切な維持管理	<input type="radio"/>				
10 住宅地や企業地における多様な緑化（生垣、壁面緑化、屋上緑化など）の支援	<input type="radio"/>				
11 開発事業における緑化の誘導	<input type="radio"/>				
12 身近な公園や街なかの花壇などを管理する団体の育成	<input type="radio"/>				
13 市民や事業者と連携した公園、広場などの管理・活用	<input type="radio"/>				
14 緑に関する市民、事業者の普及啓発	<input type="radio"/>				
15 生きものの生息場所となる緑の保全・創出	<input type="radio"/>				

自由意見

(22)立川市における緑の保全と創出の取組に対する意見や提案等がございましたら、自由にご記入ください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

同封の封筒に入れ、令和6年1月10日（水）までに切手を貼らずにポストへ投函してください。

【資料エ】 標準偏差について

本アンケート調査標本数に関する信憑性評価を示します。

標本調査を行ったため、調査結果には、統計上の誤差（標準誤差）が生じます。

標本誤差 = $\pm 2 \times \sqrt{(N-n)/(N-1) \times (p(1-p))} / n$ （N:母集団数、n:サンプル数（有効回答数）、p:回答比率）

母集団数（令和5年12月1日現在の立川市の18歳以上の人口）は、159,994人。

回答比率 (p) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
615	±2.0%	±2.7%	±3.1%	±3.3%	±3.4%
600	±2.0%	±2.7%	±3.1%	±3.3%	±3.4%
500	±2.3%	±3.1%	±3.6%	±3.8%	±3.9%
400	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
300	±3.2%	±4.3%	±4.9%	±5.2%	±5.3%
200	±4.0%	±5.4%	±6.1%	±6.6%	±6.7%
100	±5.8%	±7.8%	±8.9%	±9.6%	±9.7%
50	±8.4%	±11.2%	±12.8%	±13.7%	±14.0%

母集団の算出

総人口 185,763 人（総人口）－25,769 人（0歳から17歳）＝159,994 人（18歳以上）
（令和5年12月1日現在 立川市住民基本台帳年齢別人口より）

標本誤差は、標本から測定された統計量の標準偏差であり、標本統計量の精度を表します。一般的なアンケート調査は標本誤差が5%程度とされていることから、標本誤差が5%以下となるように設定しました。

信頼率は、一定の頻度（割合）のもとで回答数が母集団の平均に含まれると推定された区間のことです。今回の調査では100回繰り返した結果が95回程度、結果の平均の範囲内に含まれるよう、信頼率を95%に設定しました。

上記の条件設定から求められる必要サンプル数は384人以上となります（母数159,994人、要求精度5%、信頼率95%の場合）。なお、信頼率を99%と設定した場合の必要なサンプル数は661人です。

以上より、統計上400人の標本を収集すれば調査対象のニーズをほぼ把握できると判断できますが、調査の精度をあげるため、今回の調査では標本回収目標数を600人と設定しました。

実際の回収数は615件あり、標本誤差5%信頼率95%とした場合の384人を上回る精度となりました。信頼率99%の場合の661人には達していませんが、十分な精度を確保できるものと言えます。